

平成19年度鳥取市総合企画委員会 議事概要

1 日 時 平成19年11月28日（水）午後1時40分～午後3時40分

2 場 所 鳥取市福祉文化会館 4階会議室

3 出 席 者 <委員> 道上委員長、森西副委員長、井上委員、居吹委員、

尾崎委員、小林委員、徳田委員、福島委員、

村上太佳子委員、村上俊夫委員、油井委員

（欠席：安陪委員、中島委員、八村委員、福本委員）

<鳥取市>竹内市長、林副市长、綾木水道事業管理者、

安藤市立病院事務局長、津村総務部長、杉本企画推進部長、

田中総務調整監、山根防災調整監、森本人権政策監、

木下福祉保健部長、松下健康子育て参事監、

大西経済観光部長、福田農業振興課長、

田中都市整備部長、浜辺環境下水道部長、

武田教育委員会次長、尾室行財政改革課長、

窪田地域振興室長、中村文化芸術推進課長、姫村同課補佐

大田地域経済戦略室長

<事務局>田中企画調整課長、鹿田（同）課長補佐

山川（同）企画員、中原（同）企画員、小清水（同）主任

4 委員会の概要（※発言内容等について、事務局にて一部加筆訂正しています。）

○事務局（田中） 定刻を若干過ぎましたけども、ただいまから鳥取市総合企画委員会を開会いたします。開会に当たりまして、竹内功鳥取市長よりごあいさつ申し上げます。

○竹内市長 開会に当たりごあいさつをさせていただきます。鳥取市の総合企画委員会の開催に当たり、大変お忙しい中、皆様方にはご出席をいただきありがとうございます。

平成18年度にスタートいたしました第8次の鳥取市総合計画でございますが、現在19年度の後半に入りまして、前半の2年間が経過しつつあるところです。その間にいろいろな変化もございまして、そうしたことを反映した総合計画の内容の見きわめも必要となっておりますし、それから来年度以降の後期の実施計画、平成20年度、平成21年度、

平成22年度、3年分の計画につきましてまとめ上げる作業も続けてきましたところです。そういうことを踏まえて今日の委員会を開催させていただいております。

少しこの間の取り組みについて私の方から触れさせていただきますと、平成18年4月を初年度にこの計画が始まったわけですが、私もちょうど2期目をその時に迎えて、これからは人口が増加していく住みよいまちづくりというのをマニフェストとしても掲げました。そうしたことから、合併後、鳥取市的人口がわずかずつ減少していくような状況を認識しておりましたので、人口増加対策本部というものを設置します。この人口増加対策本部は林副市長を本部長に、総合的な取り組みを進めています。

一例を挙げますと、少子化対策といいますか、子育て支援、それからUターン、Iターンなどの取り組みを展開したところです。その後も経済状態がなかなか上向かない中で、地域経済活性化戦略を策定すべく、これは今年度に取り組みを進めております。企業誘致などは平成18年度にかなり進んだわけですが、手当たり次第に企業誘致をするのではなくて、今後3年間をにらんだ戦略的な企業誘致といいますか、企業誘致を始めとする経済の振興を図りたいということです。人口増加対策や地域経済活性化戦略、こういったことをやってきたというところです。

そのほかに協働によるまちづくりということで、住民自治、市民が主役となってまちづくりを進めていくといったことを推進するための住民自治基本条例や地域の核となります地区公民館の整備の取り組みをこのところ強力に進めています。こうした平成18年度以降の取り組みが今後成果を上げてくると期待をしているところです。あわせて合併3年をこの11月に迎えましたので、これから改めて3年間の経験や反省を踏まえた地域活性化策なども推進していきたいと考えています。

以上、平成18年度、平成19年度の取り組みについて触れさせていただきました。平成20年度、平成21年度、平成22年度の残りの3年間の計画、あるいは平成18年4月に掲げました私のローカルマニフェストに関する事項の再点検など、今日のこの機会の中で皆様方のご議論をもとに、こうした検討なり意見の集約を図らせていただきたいと願っておる次第です。鳥取市としては全力を挙げてこの総合計画を基本に市政を推進しているところで、引き続き委員の皆様方には厳しくも温かいご指導やご支援をお願いしたいということで、ごあいさつを終わらせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局（田中） ありがとうございました。それでは、次第の3番目、委員長・副委

員長の選出と次第にはなっているところですが、今回の会議が改選後の1回目ということで、新たに委員になられた方もございます。改めて委員さんのご紹介をさせていただこうと思っております。一応五十音順で席の配置をしておりますので、お名前を読み上げさせていただきます。

(略)

○事務局（田中） なお、本日につきましては、安陪幸伸委員様、中島建委員様、八村輝夫委員様、福本登委員様につきましては所用のためにご欠席ということでございます。

そうしましたら、委員長・副委員長の選出に移ります。

本日の会議資料の2枚目をご覧いただければと思います。こちらの方に鳥取市総合企画委員会条例というものをつけております。委員会条例第4条にアンダーラインをしております。委員会には委員の互選により選出した委員長1人及び副委員長を置くということでございますけども、実は事務局の方で委員長、副委員長の選出につきましては、引き続きとなりますけども、委員長に道上正規委員様、副委員長に森西辰良委員様をお願いしたいと思いますけども、いかがでございましょうか。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

ありがとうございました。

では、そういたしましたら、委員長の方はお席の移動をお願いできますでしょうか。

では、委員長さん、一言ごあいさつをお願いできますでしょうか。

○道上委員長 皆さん、こんにちは。ただいまご推挙いただきました、現在、とっとり総研にいます道上と申します。大役が務まるかどうか多少心もとないところもございますが、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

先ほど竹内市長の方からお話をございましたが、ちょうどこの鳥取市の第8次の総合計画は市長のローカルマニフェストというのはちょっと難しいのですけれども、要するに公約ですが、公約といえば反故になるようなことになっていたそうです、昔は。最近はそうでなしにきちんと数値目標を作つて、皆さんにわかりやすく説明して、それを任期中にできたかできないかチェックをすると、そういうたぐいのものをマニフェストと言っているようでございますけれども、そういうものを掲げられて、市長のマニフェストとこの総合計画が整合性を今回の場合持つてゐるわけでございます。ちょうど同じときに総合計画もスタートしたし、それから市長も再選されて出てこられた、そういうことで、我々としては1つはこの総合計画そのものの当然いろいろな議論をして進捗状況をチェックすると同時に、市長のローカルマニフェストがきちんとやっているかどうか、皆さん方厳しい目で

見ながら、温かい目でも見てほしいと言われましたけれども、そういうのもいいのですが、温かい目よりもやっぱり厳しい目で見て、そして建設的な意見をいただきたいと考えています。

私もそういうこと（マニフェスト）は余り詳しくないのですが、どちらかといいますと今ごろはこういう総合計画そのものよりも、市民の代表として市長が、こういうことをやりますということで出てこられたわけですから、それが実現できているかどうかがこの総合計画以上に大事な役割を果たしています。したがいまして、皆さん方、そういう意味で総合計画の方は程ほどでいいと思いますけれども、市長のローカルマニフェストをしっかりチェックしていただくと、私としてはここに座っているのは非常にありがたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと存じます。

○事務局（田中） ありがとうございました。

では、早速ですけども、議事の方に入りたいと思います。

まず、鳥取市総合企画委員会条例第4条第2項の規定によりまして、議長は委員長に務めていただくということになっております。これ以降の議事につきましては道上委員長さん、お願ひいたします。

○道上委員長 それでは、早速でございますけれども、次第の5番の議事から入らせていただきます。

まず、第1番は協議事項から入ります。第8次鳥取市総合計画の進行管理についてということで、アの平成19年度上期の主な取り組みについてご説明をお願いいたします。

○事務局（田中） 申しおくれました。企画調整課長、田中と申します。座って説明をさせていただきます。お配りしております資料1について説明します。

（略）

居吹委員さんの方から事前に意見が出ておりますので、そちらの方を担当からご説明をさせていただきます。

○窪田地域振興室長 協働推進課地域振興室長の窪田と申します。よろしくお願ひします。

定住促進についてということでUJITーン希望者相談受付状況、定住者の具体的な内容について、年齢とか若いか否かでいいですのでお知らせくださいということで、当日配付資料が配られていると思いますが、居吹委員さんの意見の方で説明させていただきます。

市の回答、考え方の方で2番、定住促進についてということで記述させていただいてお

ります。11月26日現在ですが、UJIターンの希望者、相談受付状況というのは現在、電話などで716件ありました。定住者につきましては24世帯、49名の方が定住していただいておりまして、あと予定されている方を加えますと70名近くの方が現在、定住を予定していただいております。

主な相談内容ですが、住宅などの不動産の関係、空き家の関係が一番やはり相談の内容としましては多くなっています。そのほか団塊の世代とか若い世代の方を中心に就業の情報ですね、やはり働き口というものは若い方については特に希望される方が多くなっています。相談者の年齢でございますが、相談される方は60代の方が一番多くなっております。相談者の年齢でございますが、相談される方は60代の方が一番多くなっております。窓口の方で登録者という形で、716件の相談を受けておる状況ですが、登録者は今現在187名登録させていただいております。その中でのお話になります。187名の登録者のうち60代の方が39名で一番多い。そのあと20代、50代、30代というふうに続いております。定住世帯の年齢ですが、初めは団塊の世代なんかの方が多くなるのではないかなと思っていたのですが、実際こうやって1年以上を見ますと、一番多いのが20代の方です。その次に30代の方で、数字的には7世帯、17人、20代、7世帯、16人、30代というふうな形で、20代、30代の方が現実多くなっております。

あと記述はしておりませんが、UターンとIターンという仕分けをさせていただいておりまして、窓口への相談の方はIターンの方が多いのですが、実際に定住していただく方、これはUターンです。相談はIターンが多いのですが、実際に定住される方はUターンの方が多くなっております。今までのその24世帯、49人のうち、Uターンの方は18世帯、37人です。Iターンが6世帯、12人となっております。

あと合併地域と鳥取地域というのですか、空き家の関係は多くが合併地域という形になりますので、合併地域と鳥取地域という仕分けをしましたら、11世帯、19人、13世帯、30人という形になっております。以上でございます。

○道上委員長 ありがとうございました。

それで、一応進行管理について今、事務局の方からお話をございました。それと同時に居吹委員さんからの人口増加について、あるいは定住促進についての質問事項がございましたが、それについても今お答えをいただきました。居吹委員さん、どうもありがとうございました。一応上期の主な取り組みについては今のような状況でございますが、引き続きまして、資料2の第8次鳥取市総合計画の進行管理について、これもあわせて説明して

もらって、それから議論しましょうか。よろしくお願ひします。

○事務局（田中） 資料2のイの数値目標等の達成状況について説明します。

(略)

○道上委員長 ありがとうございました。

まず、資料1について、総合計画の進行管理についてお話をございました。それから、もう1点は数値目標についても資料2に基づいて説明がございました。委員の皆さんから、居吹さん、それから尾崎さんから質問事項をいただいているが、それについても答えが多少あったようですが、それもまだ十分でないかもわかりませんので、そのあたりについてご質問、あるいは意見を述べていただきたいと思います。

そこで、私の方から1つだけお聞きしたいのは、資料2の数値目標の達成状況というところでございますけれども、2ページに数値目標についてということで、20万都市づくりビジョンについて22項目上がっています。それに対する達成状況は、計画を立てた10年後の平成27年度を目標値にして、そして平成19年度の結果が何%といったかと、こういう表現ですか、ビジョンについては。もう一方、その右側に基本計画がございます。そのビジョンを受けて今度基本計画をつくっているわけでございますが、これはもう少し短期の視点で物を見ていくことによって、目標年次は平成22年がその目標の数値になって、そして平成19年度の結果が、平成22年度に対してどうなっているか、そう見たらいいですか。したがって、この基本計画の方は平成22年度が分母になるわけです。それでいろいろパーセントが出てますと。それを書いたのが、資料2の1ページの左側ですね。夢があり誇りがもてる20万都市づくりビジョン、これについて数値目標が22項目ございますよと。その中で達成できたもの、達成できたというのは平成27年の目標値までいったものがいくらかありますと。もちろんそんなにたくさんないですね。例えば達成率70から79%というのは2項目ありましたとか、そういう数値が出ているわけです。その右側に基本計画についての円グラフがございます。平成22年を目標値として平成19年はどれだけ達成しているかという達成率が書かれていますと。これは平均したらどのくらいになっているでしょうか。これでいくと割合いいですね。だけどまだ2年しかやっていないからね。これが全部100にならざることないから、そういうわけにはいかないでしょうけども。そういうことで基本計画の方も割合、この数値を見る限り順調にいっているというのがデータ上の話です。

ただし、データと皆さん方の感覚というのは違うかもわからないし、あるいはわかりに

くい点があるかもわかりませんので、ご質問をお受けしたいと思います。どうぞあればお願ひします。どんな点でも。

どうぞ、村上さん。

○村上（俊）委員 基本計画の86番（資料2）で製造品出荷額等が出ていて、平成19年度は当然としても、平成18年度も未公表という形になっています。実は鳥取県経済は一番何が深刻なのかというところで見ると、製造品出荷額が非常に大きく落ち込んでいるというところがあるわけです。平成18年度が未公表となっているのはこれはなぜですか。もう既に速報値も出ているように思うのですが、市町村別では出でていないのでしょうか。

○道上委員長 どうぞ、事務局。

○事務局（田中） 市町村別の確定された値はまだ公表されていないということでございます。

○道上委員長 しかし、遅いな、一番大事な指標が。こんなものはもっと前に出てこないと。

○村上（俊）委員 速報値は出ている。

○道上委員長 速報値ぐらい書いておいたら。

○村上（俊）委員 括弧書きで速報値を入れるぐらいの対応をしないと。言われるよう非常に大切な指標ですから。

○道上委員長 そうです。それで今わかれば言ってもらったら。

○事務局（田中） ただいま確認いたしますので。

○道上委員長 わかるでしょう。村上さん、では後で。

○村上（俊）委員 はい。

○道上委員長 では、そのほか何かありましたらどうぞ。

指名して申しわけないですが、居吹さん、尾崎さん、よろしいですか、こんなもので。だめならだめと言った方がいいですよ。思いがあれば、どうぞ。20万を割らないようにしてほしいということなのですが、なかなか人口はそれでも実際は難しいと思いますよ。日本全体がもう人口減少社会に入っていますし、中国地方は全国レベルの人口減少よりも10年先取りしていっています。日本全体がちょっと下がりぎみなのです。将来はもっともっと下がっていくのだろうというところで、鳥取市だけが断トツでおるといったら、余程市長に魅力があって、女性がたくさん来ないと、そんなことでもいくかどうかわかりま

せんけどね。なかなか難しい問題だと思います。それでも頑張らないといけない。ということで、一応目標を上げてやっておる。多少の修正はあるのですが、実際はこれもかなり無理していると思います。だけど無理しないとなかなかいいことにならない。その辺はしようがないと思いますけどね。今、20万3,000人、20万超えているくらいでしょ。

○村上（俊）委員 いやいや、20万482というのが、11月現在。

○道上委員長 切っているの。

○竹内市長 切っていますよ。

○道上委員長 本当か。

○竹内市長 3,000人は目標なんですよ。

○事務局（田中） 先ほど申し上げましたけども、まず19年10月1日、これは国勢調査をもとにした人口ということで、先ほど資料にありましたが、20万385人と。11月1日、27日ですか、これが公表されまして、若干ふえて20万482人と。

○道上委員長 それは市役所かどこかに数値は出ているわけですか、市民にわかるよう。市役所本庁舎の玄関にあるようですね、わかりました。

○竹内市長 委員長さん、人口の指標は毎月幹部会のテーマになるぐらい重視しておりますが、市民の皆さんに一番見ていただきやすいのは市報の裏表紙から一つ手前に、12月1日号がちょうどお手元に届いたころだと思うのです。まだですかね。届いていないところは1日、2日のうちに届きますが、11月1日の鳥取市の人口というのを載せております。

○道上委員長 わかりました。

○竹内市長 ちなみに隣は市長からの手紙というちょっとコラム。

○道上委員長 わかりました。

居吹さん、そういうことだそうですから、ひとつ市報もよく見ていただいて。

○居吹委員 市報はもう昨晚見ました。

○道上委員長 そうですか。

それから、尾崎さん、どうですか、これは今説明あったのか。

○尾崎委員 今のところではないと思います。

○道上委員長 まだ出てないな。

○尾崎委員 はい、出番ではない。

○道上委員長 それから、定住促進について、副市長をヘッドにしていろいろやっておられるということで、副市長もちょっと説明してください。せっかくあなたがやっておられるのだから。どうですか、その辺の感覚、将来の見通し。余り数値ばっかり言わなくてもいいと思いますが。これは議会と違いますので。わかりやすく。

○林副市長 昨年の5月に組織を立ち上げて、9月に専門の相談窓口をつくりまして、そこに嘱託の職員1名に入っていますが、その方はちょうど団塊の世代の方でして、全国のダイエーずっと勤務していらっしゃってお家の事情でUターンして帰ってこられた方です。いろいろ就職活動で苦労されて、ちょうどうちの嘱託職員に応募されて入っていただいたということですが、大変きめ細かく対応してくださっていて、やっぱり相談窓口の対応一つで随分、鳥取に住もうか住まいかまで決められるほど重要な部分がありまして、そういう意味では相談窓口とか職員一丸となってきめ細かく対応するようにしておりまして、その成果が出て先ほどの24世帯、49名という実績が上がっています。

さつき、20代、30代の方が結構多いという話でしたが、やっぱり鳥取に戻りたいという方が結構多くて、それで空き家情報を出したり、それからご自分が家を建てられるのにも100万を限度で10分の1の補助制度も設けておりまして、そういうのも非常に活用していただいて、戻られるとかIターンで来られるというケースが非常に増えています。この12月にはその増額補正も議会の方にお願いするといった状況で、そういう意味ではそれなりに成果が上がってきているのかなと思っております。

今後もこういうUターン、Iターンについてきめ細かい相談をお受けしながら、さらにたくさん帰ってきていただくように、いろいろなニーズもありますので、そんなニーズも把握しながら、取り組みをしていきたいなと思っておるところでございます。

○道上委員長 今言われた、IターンとかJターンで入ってこられる人が家を新築する場合、10分の1で100万を限度で助成されると。

○林副市長 はい。

○道上委員長 古い民家みたいなやつは何かあるのですか。ちょっと修復したり。

○林副市長 改修費も対象にしております。

○道上委員長 していますか。

○林副市長 新築でなくても修繕でも構いませんので。

○道上委員長 それでもいいの。

○林副市長 はい。

○道上委員長 そうですか。ということのようですので、皆さん方もお友達などが大阪の方におられたら、ぜひそういう情報を流してあげてください。

ありがとうございます。

次に行きましょうか。次は、第8次の鳥取市総合計画の実施計画（素案）について。これから残りの部分ですね。では説明をお願いできますか。

○事務局（田中） 第8次の鳥取市総合計画の実施計画（素案）（資料3）に基づき

（略）

○道上委員長 ありがとうございました。非常に盛りだくさんな説明でございましたが、資料3は、平成20年から平成22年度の3年間の実施計画を書いているわけですけども、上期においての計画のときには、下期のこういう実施計画は書いていなかったわけですか。

○杉本企画推進部長 実施計画（素案）でございますが、実は第8次総合計画が平成18年度から10年間がその基本構想、それから5年間が基本計画でなっております。その策定時に3年間の実施計画ということで、平成17年度の策定時に平成18年、平成19年、平成20年、その3カ年をまず作っております。それを毎年、予算編成とセットになりますが、ローリングをしていくということで、このたび2度目のローリングの作業になりますが、平成20年度から平成22年度、基本計画の5カ年間の最終の平成22年度の後期部分がはっきり示されるといった内容になっております。

○道上委員長 わかりました。

それで前、上期にやられた3カ年の実施計画と今回の下期の実施計画で、今たくさん言われましたが、大幅に変更したようなところはございますか。あるいはつけ足したとか。そこを簡単でいいですから。全部言うことはないです。

○杉本企画推進部長 基本計画がもとになっておりますので、変わりがないとお考えいただきたいと思います。ただ、このたびの素案の中で新規に入れ込んだものといたしましては、29番の民間住宅の改修支援、それから38番の後期高齢者の医療の関係の事務ですね。それから41番のAEDの導入の事業。

○道上委員長 これは新たに入れたわけですか。

○杉本企画推進部長 ええ。それからあともう1点、93番、これからまたご報告しますが、地域経済戦略関係ですね、この4点がこのたびの実施計画で新規に入り込んできたものでございます。

○道上委員長 そうですか。はい、わかりました。

それでは、今の新規の最後の地域経済戦略推進事業、これについての説明があるわけですね。それでは、資料3のところの実施計画について、今事務局が説明した点に多少修正が入ってきてているということのようございますが、どなたかご意見、ご質問ございましたらお願ひいたします。

どうぞ、森西さん。

○森西委員 事前に出そうと思っていたのですけど、ばたばたしていて出さなかつたのですが、6番です。学校施設の耐震化のことについてちょっと。先般の検査によってだいぶん美保小とか南中とか3つが非常に危険だということが新聞に報道されたりしておりましたが、こういう点についてはこの計画の中での見直しというものはないわけですか。

○武田教育委員会次長 今回の実施計画の見直しにつきまして、一部見直しはございます。耐震化については前倒しでやるようにしております。今、具体的に資料は持ち合わせておりませんので、どの学校がどうということは申し上げることはちょっとできないのですが、全体的に前倒しをするようにして、少し見直しをしておるというのが実情でございます。

○森西委員 わかりました。前倒しで急を要するものは取り入れていくということ。

それからもう1点、来年の4月から実施される75歳以上の高齢者医療について、この前鳥取県の組合の総会があつて、鳥取県の案については一応決定されたということを報道で見ましたが、国の平均が6万何ぼのやつが鳥取県の組合の平均でいくと7万1,000円か2,000円か何ぼになるということが、ちょっと全国的なずらつと並べてあって報道されていました。高齢者医療制度について高齢者の方が非常に医療に制限がされてということがあって、非常に不安がっておられるところがあると思います。その辺のことをわかりやすくしてもらいたいなと私は思っているところです。私も該当するものですから。

○木下福祉保健部長 後期高齢者医療制度、平成20年4月から始まるということで、最近では各県の保険料というのも示された段階です。本市としましては12月1日号の市報によりましてその周知を図りたいと思っていますし、保険年金課の方で各町内会の方まで出向いて、要望があれば出前説明会を行いたいと思っています。もう既に用瀬地域では老人クラブの方に約70名余り集まって研修会を開催したという経過もありますし、既に松保地区等も申し込みが入っていますので、ぜひ周知徹底を図っていきたいと考えています。

○森西委員 わかりました。それともう一つ、これは先の問題になるのですかね、ごみの減量で10月から実施になりました。これによって環境政策課長に聞くというと、非常にあんまり抵抗なしにスムーズにいったということで、市の方の対応が良かったのかなと思っていますが、幾らぐらい減量になったか、その辺のところは、数値面では。

○浜辺環境下水道部長 10月1日から実施いたしまして、1カ月のデータでございますけども、昨年10月のデータと比べますと、可燃ごみで約22%、それからプラスチックごみで8%減っております。一番当初でございますので、かなり減量になっておると思います。これからどのように推移していくのか見たいと思っていますが、これがリバウンドでもとに返るというようなことはないと思っていますが、さらに減量化についてはお願いしていきたいと思います。

○道上委員長 どうぞ、小林さん。

○小林委員 ごみの話が出ていたのですが、今それぞれマーケット等でマイバッグを使うという格好で、今までマーケットが出ていた買い物のビニールの袋などは多分減ってはきていると思います。それもあるのですが、確かに包装紙とかそういうものを使っていない国もたくさんあると思いますし、そのあたりもやっぱり考えていかなければいけないのかなというのと、それから不法投棄がたくさんあるということですけれども、これ電気製品とか、結構山の方に行ってみると車が投棄してあったりしますけれども、この大型ごみの収集というのは、よその県では年に1回とか2回という格好で収集する日を決めているのですが、鳥取市ではそういう計画はされないのでしょうか。ちょっとそのあたりも気になったものですから、いかがでしょうか。

○浜辺環境下水道部長 マイバッグ運動につきましては、これは業界の方も、行政がどうこう言う前に自主的に一生懸命やられて運動が進んでいるところで、行政としてもそういったことについての支援ができないか、今検討しているところです。

それから不法投棄につきましては、自治連さんなんかの協力も得まして今市内の二百五六十人の方にボランティアの不法投棄監視員になっていただいて、見付けていただいて通報してそれを処置するというようなことをしております。

それから大型ごみにつきましては、今まで鳥取地域につきましては戸別、家庭にお伺いして有料で回収するというふうにしています。合併地域につきましてもこの10月からそういう方式になっています。不法投棄されたものは当然不法投棄のものとして犯人を摘発したり収集したりしていますが、定期的に年に何回かまとめて集めるという収集方式は、

確かに全国の自治体を見ますとそういう回収方式をとっているところもありますが、鳥取市につきましては申し込みによってご自宅までお伺いするという方式を当面続けていきたいと思っています。

○小林委員 わかりました。もう1点よろしいでしょうか。観光客の関係で観光客を増やしてということですが、いろいろ経済的な問題も絡んでくると思いますが、確かに鳥取に観光客を呼んでこなければいけないのですけれども、いまいち鳥取は観光に対してのPRとかそういうものが欠けているのかなという気がします。民間企業であってもそうですし、鳥取市であってもそうではないかなと。一部の人は知っているけれども、ああ、何だ、そんなことがあったのかという感じのことが多々あるような気がするので、この辺のPRも含めて、今後、人を呼んでくるためにどういうことを考えていらっしゃるのかお尋ねしたいと思います。

○大西経済観光部長 非常に難しい問題でもございます。鳥取市は観光客を誘致するには大変有能な全国に知れ渡った鳥取大砂丘を持っています。2009年の高速道路、無料の高速道路がつくわけですが、これを核として誘客をしたい、全国にPRしたいと思っています。実は昨年、テスト的でしたが、11月から1月の初めまでの40日間ぐらい砂像ということをやりまして、11万のお客さんを見ているところです。こういうことで自信もつけております。特にNHKの全国放送でも取り上げていただきました。また、砂像の制作状況等も中国地区でも取り上げていただいています。現在、整備を行い来年の4月26日から翌年の1月3日までこの砂の彫刻、砂像と言いましたけども、砂の彫刻を展示していきたいと思っています。そういうことも含め、鳥取市にはしゃんしゃん祭や流しひなという、いろいろな観光に対するイベント等もあります。高速道路に乗ってそういうものを勢いづけてどんどん売り出していこうと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。市民の皆様にももうける心を持ってそれぞれ商売をやっていただけたらと思っているところです。

○小林委員 ありがとうございます。

○道上委員長 今のごみの問題ですが、私が10何年前ドイツに行きましたが、ドイツではデパートとかイオンのようなスーパーに大型のごみ入れがあって、その中に包装紙などを捨ててみんなは包装紙などをあんまり持って帰らない。私は、例えば靴を買ったときには紙袋に入れてもらうだけで箱は持って帰らないわけです。おもちゃなんかでも、箱はお店に置いてくる。日本はもちろん包装紙もですが、箱みたいなものが何か好きですね。

すぐ履くのにあんなものは要らないのではないかと、だから要するにそれを置くための大きなごみ入れだね。そこにみんなほうり込んでいっていますよ。日本は何か知らんけど、手にいっぱい持って帰る、うれしそうに。そこら辺が文化の違いですが、鳥取市は率先してそういうのを早く変えていったらいいと思います。そうしたらごみが非常に減ってくる。例えばジャスコとかそういうところは自分のところで出したわけだから、それは当然処分しないといけないわけです。だから箱はもう要りませんと、みんながそうすれば、それが一番のマイバッグだからね。ここまでいけばいいのですが。だけどこれは県民性とか何かいろいろあって、すぐにはいかないかもわからない。しかし、そのときに大きなごみ入れを市が作ってやりますと、そうしたら大分もうかるわけです。それが1点。

それから観光の問題も、今言われたように、鳥取市も頑張ってはいます。だけど今、どこも同じことを言っているわけです。松江も言っている、米子も言っている。広島も言って、岡山なんかもすごいことを言っている。だから少しぐらいしてもなかなか目立たない。余程戦略的にやらないといけないから、砂像なんかもいいですが、そういうことと同時にいい素材もあるわけです。例えば池田公の墓地なんかも、あんな立派なものはめったにならない。だけどその周辺が悪いわけです。それはどういう意味かというと、車も入らないような状況だと。そういうのは一般の人はできない。ボランティアガイドの説明なんかはできるのですよ。錦帯橋なんか行ったらボランティアが物すごくたくさんいますよね。ああいうのはちゃんと訓練を受けたら我々市民もできるわけです。ところが、個人では駐車場とかその周りのサイン計画はできない。これは市、あるいは自治体の仕事です。だから自治体がやらないといけない仕事とそれから市民のやる仕事をきちんと仕分けして、お互いにやっていくようにしないと、なかなか競合していますよね。ちょっとしたことをしてどこも同じようなことを考えていますからね。それと差別化することが大事であると。大西さん言われましたが、ちょっとしたぐらいではいけませんよ、かなりのことをやらないと、松江に負けてしまう。大体松江と対抗しないといけないわけです。そういうことをぜひ考えていただきたい。というのを僕はちょっとコメントをさせていただきました。

○小林委員 先ほどドイツとおっしゃったではないですか。実は私たち今回ちょっと行ってきたのですが、ドイツに。確かにドイツには大きなごみのポストがいろいろなところに置いてあるのですよね。色分けで置いてありますて、それを出すのを自分のところは週に2回とか1回とか決めてその分でお金を払っているみたいです。町に結構そういうのがありますし、町の中にごみというものを見なかつたのです。

○道上委員長 そうそう、ごみはない、ものすごくきれいですね。

○小林委員 きれいですよね。

○道上委員長 デザインもいいし。だから小林さんによく聞いて、その辺も。1回やられたらどうですか。

○小林委員 だから鳥取もそういうふうなものを。

○道上委員長 ファッションになるよ、町のね。

○小林委員 結構集合住宅なんかもありますし、そういうところに置くという方法もいいのかなとちょっとと思いました。

○道上委員長 そういうことで、ひとつまたよろしく。

先ほどの調べはわかりましたか。

どうぞ、お願いします。

○事務局（田中） 先ほどの製造品出荷額であります、平成18年の工業統計調査の速報ということで今月の中旬に公表がされておりました。この表を作成したときと若干タイムラグがございまして、申しわけございませんでした。ちなみに平成18年の出荷額、これが4,718億となっておりまして、対前年比約270億の減と。ちなみに県が、これが対前年比で336億の減少になっております。県が336億のうち270億は鳥取市というような状況になっておりました。

○道上委員長 だけど、この平成22年度は4,785億円だから、低く抑えているな、これは。

○事務局（田中） 実情に合わせまして。

○道上委員長 平成17年は4,990億円で、平成22年は4,785。その割合でいけばこれ結構、4,718億円と4,785億円だから、かなりはいっているわけですね。村上さん、一応速報値ということで、よろしいですか。

だからこれは村上さんが言われたように非常に大事な指標で、国の方もそうなのですが、出てくるのが遅い。だからそれをもっと早く出そうという動きがあったと思うので、そのときは多少精度が落ちるかもわからないけれども、速報値で括弧書きとかで出していただきたいということをお願いします。

○事務局（田中） 申しわけありません。この表をつくったときが10月の終わりぐらいからつくり始めたものですから、タイムラグがちょっと生じまして、大変ご迷惑をおかけいたしました。

○道上委員長 ありがとうございました。

それでは、今、第8次鳥取市総合計画実施計画についていろいろ説明がありましたが、これについてはこんなことでよろしいでしょうか。

それでは、次に移らせていただきます。

○事務局（田中） 委員長、済みません。事前の意見の方でいただいておるのがございまして。

○道上委員長 まだあるわけですね。どうぞ。

○事務局（田中） 尾崎委員さんの方から、経済活性化戦略の方は説明のときにお話しさせてもらおうと思いますが、文化についてということでございます。

○道上委員長 どうぞ、言ってください。

○事務局（田中） 済みません。文化についてということで、文化芸術推進課の方でこの辺のお話をさせていただこうと思っております。

○姫村文化芸術推進課長補佐 文化芸術推進課の姫村と申します。

尾崎委員さんの方から鳥取市の文化につきましてご意見をいただいています。マニフェストの人口が増加していく住みよいまちづくり、人が輝きまちがきらめく快適・環境都市鳥取を目指すには、優しさと人のつながりが前提だと思います。鳥取の店の優しさを感じたり、町で人に尋ねて笑顔で対応されたりする場面は、県外の都市に比べてかなり少ないような気がします。優しさは文化的な活動が必要です。文化が欠落している感じがしますというご意見をいただきました。

市としましては、本市には恵まれた自然と長い歴史にはぐくまれた個性豊かな文化や伝統が各地に残っております。各地に残された貴重な伝統文化の伝承ですとか、地域住民、市民の皆さんの手づくりの活発な文化活動への支援など、ソフト対策の積極的な推進を図ることで行政と市民の連携のもとで、市民一人一人が文化に親しみ、心豊かな潤いのある生活が送れますよう、鳥取らしい魅力に満ちたまちづくりを進めていきたいと考えています。

次、3番目ですが、鳥取市の文化施設についてご意見をいただいています。文化施設の活用は楽しいまちづくりにつながるという意見をお持ちです。そこで文化施設の入場者数の推移について照会をいただきました。

本市の文化施設の状況ですが、別紙4ページについております。文化施設以外にも文化ホールですとか福祉文化会館等もご意見の中にありましたので、文化的施設の入館者数

の推移ということで、平成14年度から平成18年度までを表にまとめていますので、見ていただけたらと思います。

○道上委員長 別紙4ページですか。

どうですか、よろしいですか、今の答えで。納得されましたか。

○尾崎委員 ええ。というか。

○道上委員長 それでも最近随分よくなってきたと思いますね。私も時々出かけてみたら、鳥取市の人々の顔色がよくなっていました。人相もよくなってきた。やっぱり文化に接したら。前の知事さんも非常に文化にあれだったし、市長さんもですし、それから何よりも、県民会館ができるいろいろなイベントができるようになって、それも非常によくなっている。

そこで僕から1つ質問。今ごろは新聞社も一生懸命音楽会とか何かやっています、これはもうけも兼ねてやられていると思いますが。僕もよく行きますが、1つ情けないなと思うのは、市役所のすぐ隣の市民会館。あの建物はどうなのかよく知りませんよ、耐震設計を僕がやったわけではないからわからないが、大丈夫だと思うけれども。音響は割合いいのに、いすが悪い、狭くて。僕は先週の土曜日に音楽会に行ったら、横の人ちょっと大きいわけです。もう僕は小さくなって、情けないと思いました。幅をちょっと広げたらいいわけ、そんな大したお金ではないのになと思って、ああいうところに満足感を感じるかどうかとというのは。あのいすをどうされるのかいろいろな長期計画があると思いますが、あのいすが狭過ぎる。そういう施設はたくさんないとやっぱりなかなか文化ホールだけではいかないね。まだあっちにもあることはあるけども。ということです。

市長、何かありましたらどうぞ。

○竹内市長 ありがとうございます。何とかしなければいけないといつも思っていたので、強い味方を得たような気持ちになりますが、実はあのいすは、あのホールに合わせて特注して作ってあるようで、やっぱりいすの問題でいろいろご注文いただいたときに、全部1,000席取りかえたらどうなるのかといったら、1億5,000万円ぐらいかかるのです。

○道上委員長 そんなにかかるの、いすだけで。

○竹内市長 だそうですね。劇場のいすというのは非常に高いものだそうとして、多少クッションを張りかえたりとかいろいろあり得るのでしょうけど。

○道上委員長 それはいけないな。

○竹内市長 横幅の問題は、これは座席数にもかかわる大きな問題でして、作りかえることになると大変だと。市民会館は私が就任してからトイレとか会議室とか控室をちょっときれいにしましたが、やっぱりそれくらいが今限界のように思っています。次の段階は市庁舎の建てかえなどとも絡んで、やはり今、市民会館が1,000席、梨花ホールが2,000席、文化ホールが500席、それから県文の小ホールが500席。やっぱり1,000席ぐらいのホールが必要なように思いますので、これは建替えの計画をちょっとまじめに考えなければいけないと思っていましたところ、昨日、文化団体協議会からも舞台に上がるときの階段が急で狭いとか、それから舞台に物を搬入するところの搬入口が非常に不便であって、いつも劇団関係者とか音楽関係者とか非常にご迷惑をかけているという深刻なお話も尾崎さんもいらっしゃったと思いますがいただいている。

○尾崎委員 そうです。

○竹内市長 昨日の今日でだいぶん私も痛感をしたところです。道上委員長さんのお話も含めて考えなければいけないなと思うのですが、知恵もいろいろ要るものですから。

○道上委員長 いろいろお金もそうだけど知恵も出しながら、ちょっと考えるということも大事ですね。人間は頭がついている以上、考えなければいけない。

○竹内市長 そうですね。考える葦というところで頑張りたいと思います。よろしくお願いします。検討してまいります。

○道上委員長 どうぞ、尾崎委員さん。

○尾崎委員 別件です。4ページの表ですけども、入館者数の推移というのがございますが、観光客が入るところがわらべ館、やまびこ館、仁風閣のあたりは多分そういう対象になっていると思うのですが、実は私はわらべ館の唱歌講師というのですか、はかまをはいて大正時代とか明治時代の格好をしてやってまして、本当に平日お客様が入ってくださらないということで、雨が降るといいのですね、入館者数が多くて。私が行く時はいつも天気で、今日はだめかもしれませんねという話で、2人、3人を相手にして唱歌講師をしたこともございますが、天気がいいともう全然だめで入らないと。それで神戸館長がものすごく頑張って、イベントをしてくださっているのですけれども、今推移を見ましたら、私が講師をしている平成16年あたりから見ていますと、やっぱり平成17年が落ちていて、平成18年がちょっと上がってということで、どうなのかなと。必死になってイベントをやっているけども、イベントだけでは何ともならない状況というのがあるので、それをやっぱり点と点を線で結ぶ何か強力な戦略がないと難しいのかなと。楽しいことを

やっていると土日とか祝日なんかは結構人が入るのですけども、やまびこ館はそうでもないようすけども、仁風閣も割と確実に落ちてきている感じもあるし、せっかくいいぐあいに整備をされて結構イベントもされたり、各文化団体なんかちよこちよこ使われているのですけども、姫鳥線に期待をするという面が多いのかもしれないけども、また別の方向を少しずつ考えていかないと頭打ちになっているなという感じもあります。あともう1件、パレットとつとりもそんなに伸びていないと。随分文化団体協議会の方でも文化団体に対して何回か熱田さんに来ていただいて宣伝していただいて、努力はしていただいているのですけれども、やっぱり備品が高いとかなんとかで、結構昨日もその話も出ていたのですけれども、使用料が。

○道上委員長 何の備品が高いですか。

○尾崎委員 パネルとかいすとか机とか。

○道上委員長 借りるのが高い。

○尾崎委員 借りるのがものすごく高いと。部屋代につきましては文化団体は何割引きで結構安いのですが、何日間かは借ります、夜中も借りるわけで、時間で計算をしますとすごく高いというような感じがしますし、せっかく駅前にあるスペースがもったいないなと。皆さんのが来られてにぎわいのあるような。

○道上委員長 だから高いから入りにくいわけですか。もうちょっと安くしたら入る。

○尾崎委員 かもしれないですね。一度使われたら、私たちはもう使わないと言われましたからね。

○道上委員長 ああ、そうですか。ぜひ考えてください、大西さん。

○尾崎委員 そのあたりも見ていただいて、私も全然何をすればいいのかよくわかりませんので、何とかしないといけないのだろうなという感じです。以上です。

○道上委員長 ありがとうございました。また考えてもらってその辺はやってください。
ありがとうございました。

かなりいろいろな意見が出てきて、ありがとうございます。とにかく皆さんのがいろんな知恵を出しながらやっていかないといけないという状況ですが、委員の皆さん方もそれぞれのところで活躍されていますので、よろしくお願いしたいと思います。

そこで、もう次に行かないとなかなか終わらないので、このぐらいにして、報告事項へ行きましょう。まず、報告事項1番、ローカルマニフェストの取り組み状況についてということで、この前の第8次の鳥取市総合計画実施計画（素案）について、大体こういうこ

とでやっていかせていいですね。

それでは、次の報告事項、ローカルマニフェスト、これについて説明をお願いします。

○鹿田企画調整課課長補佐 失礼いたします。企画調整課の鹿田哲生と申します。お手元の資料の4ローカルマニフェストの取り組み状況についてご説明します。

(略)

○道上委員長 ありがとうございました。

こうして見れば、一応順調にいっているようですね。例えば企業誘致、今年、平成19年になってから結構増えているのですか。そんな状況ですけども。もう一つは企業誘致、高速道路というのはもちろんいいのですが、それ以外でやっぱりまちの魅力というのが非常に大事なので、まちの魅力は何かというときに、いろいろあるのですが、その中で奥さん方がこっちに来るかどうかによって人口も増えますし、それからだんなの方もその気になるかどうかという問題があります。そのときに教育の問題が非常に関係すると。それで特に高校を受験しなければいけないときだったら大阪だったら大阪におりたいというわけです。いやいや、鳥取へいらっしゃいと、鳥取へ来たら非常にいい高校があります。例えば西高、東高、それから八頭高、青谷とかいろいろあります。だけどそのお子さんのレベルに合ったような高校に、そういう企業誘致で来たりあるいは転勤で来たような人には、席をつくらなければいけないと思います、僕はね。今、少子化で学生数が減ってきてるわけだから、40人学級か35人か知りませんけども、そこでちょっとぐらい減らしてもどうということはない、勝手に減りますからね。それで空きポストを作つてそこにそういう企業から来た人、転勤で来た人、そういう人を受け入れるような仕組みを、鳥取が一番早く、人がやってからやつたのではいけない。人がやっていないことを早くやって魅力をつくらなければいけない。人がやってからではもう大体遅いからね。そういうふうにすればいいのですが、どちらかというと西高の人なんかは空いていたらけしからんといってすぐ怒る、自分の子供を行かせられないと。そんなければなことを言わずに、一部空けておくと。東高も西高も、それからほかの商業も、いろいろなレベルがあつていいと思うので。大体転勤族というのは割合普通科を好むと思うのですが、そういうところで青谷もいいと思う。それぞれのレベルに応じたようなところを、その子供さん用のポストを作る。そうしたら、奥さんも来られる、子供も来る。それでだんなもその気になってくる。いろいろなことがいいので、そういうのをぜひやってもらつたら企業誘致なんか非常にやりやすくなる。それが売りになるのです。鳥取は空気がいいとか山がいいというのはどこでも言う

からね。もうだめというよりも大したことはない、インパクトが。それよりも教育県であるのだったら、そこをしっかりと高校側と教育委員会とよく連携してもらって、中学から入るのか、そういうのをやってもらうと。鳥大の附属なんかもいい。そういうのをやってもらうと企業も来やすいのです。ただ、助成金があるとかこんなのはどこも同じことです。それで鳥取がものすごくいいということはない。私は全部調べて、鳥取は土地が高い。だから本当はあまりいいことはない。だけども、こんな違う魅力がもっとありますといって他でやっていないことをやらないと来にくい。市長、その辺も高校や教育委員会なんかとやってもらったら。そうしたらかなり家族でやってくると思います。ぜひそういうことも検討していただければ、企業誘致もまた加速化できる可能性があるのではないかと思います。どうぞ皆さん、何かありましたらどうぞ、今のうちに。どうぞ。

○尾崎委員 関連してですが、私の教えた子が鳥取に講師で帰っていまして、結局たくさん県外に出てしまっているのです。要するに鳥取で就職できないということですね、教員の場合ですけども。何人か去年もありまして、大阪に行ってしまうのと。だって鳥取県は全然採用試験がないと。中学校が2名ぐらいですか、県全体で。小学校が6、7人、県全体で、本採用が。というようなことで、その実態は全然私はわからないのですが、いい子なのに何で鳥取に残ってくれないのというのが結構。工場の誘致とかそういうのもあると思うのですけども、帰りたがっている子が帰れない状態というのが結構あるので、そういう実態も知つていただくといいかなと思いました。

○道上委員長 それがやっぱり人口減少社会の一つの厳しい側面なのですよね。子供が少なくなってくる。だからそこは多少余裕を持ちながら、今みたいなことも入れて、やつていいたら。新鳥取方式を考えてください。

○尾崎委員 難しいのは難しいけれども、もったいない。

○道上委員長 難しいことをするのが仕事であって、易しいことはだれでもできる。

何かございましたらどうぞ。

それでは、次に行きましょう。次は、合併3年を振り返って、資料。

どうぞ、何かある。

○事務局（田中） 浩みません。予定時間もだんだん刻々迫ってきます。

○道上委員長 ええ、そうですね。

○事務局（田中） この報告事項の中で合併3年を振り返ってというものと、5番目の因幡の祭典の関連は、これはもう見ていただいてということで。

○道上委員長 そうですね。はい、わかった。

○事務局（田中） 経済活性化戦略の方の報告と。

○道上委員長 そこだけ行こうか。

○事務局（田中） 中心市街地のこの2点にさせていただきたいと思います。

○大田地域経済戦略室長 資料6の鳥取市経済活性化戦略について説明します。

（略）

○道上委員長 これは尾崎さんが何か言われた、質問いいですか。

○尾崎委員 いいです。はい、もう時間ないので。

○道上委員長 時間がないからあれだけ、1つだけ、要するにこれ5ついろいろ書いている。これは非常によくできているけれども、だけどやっぱりオンリーワンを考えなければいけないわけ。鳥取しかない方法を考えないと。いろいろなことを言っても同じようなことをみんな言っているからだめなのです。だから1つ、どこにもない方法で人を引きつけるということを考えてくださいと。

○大田地域経済戦略室長 はい、わかりました。

○道上委員長 そういうものがないといけない。何にしたっていっぱいばらばらと書いているだけだから。だけど、やらないといけないから、いろいろなことを書くのはいいのだけれども、1つやっぱりポイントがないといけないわけだ。日本で一つしかないとか。少なくとも中国地方でこれだけ。そういうのを出してくださいというのが、こういうやつの一番のポイントです。

ということで時間がないので、仕方ないですが、次、市街地活性化基本計画について。簡単で結構ですので、そんな細かいことは言わなくてもいいですから、ポイントを言ってもらったら。

○田中都市整備部長 資料7の鳥取市中心市街地活性化基本計画について説明します。

（略）

○道上委員長 どうも済みませんね、時間がなくて。

これは要するに国のプロジェクトがとれたわけ。まだ申請中か。

○田中都市整備部長 正式申請はしております。10月26日に申請をいたしました。認定は、国の手続がまだ終わっていないということで、国の方も事務方はもうオーケーが出ていると聞いています。

○道上委員長 きちんと認定されたしたら、いつになるわけですか。

○田中都市整備部長 私どもは国からは11月中にと聞いておったのですけども、もう11月も終わりますので、もうちょっと延びるかもしれません。

○道上委員長 とにかく近日中におりるという確信のもとにいろいろなことをやろうとしているわけですね。

○田中都市整備部長 はい、そうです。

○道上委員長 ということのようでございます。それができたら、うまくいくかどうかわからないけど、とにかくちょっとぐらいは期待が持てるかもわからない。

ということでえらい申しわけないですね。私の不手際で時間が20分ぐらいオーバーして。

○事務局（田中） 済みません、1点。

実はここに来る前に八村委員さんの方から事前意見ということで。

それで今の中心市街地に関係がございますので、要は記述が弱いというだけの話なので、これはまた今後検討すると。

○道上委員長 そう言っておいてください。

それで今日はちょっと申しわけなかった。20分ぐらいオーバーしていますけれども、皆さん、それぞれ予定もあろうかと思いますので、もうこの辺で終わりにしたいと思いますが、総じて感覚的に見れば、何となくいけそうではあると。だけども、もう一つ工夫が必要るよというところもいくらか指摘されたので、その辺についてはローリングの実施計画の中できちんと入れて、どうせこれは議会の承認も要るわけでしょうからね、要るのでしよう、実施計画。だからそこら辺も踏まえて。

予算関係が要るから、だから大体皆さん方の意見をそこに反映させながら、大体においてはいいと、感覚的にね。それをもう少しぬり張りをつけないといけないところはやってくださいと、こういうご意見だったように思うので、その辺よく考えてやっていただきたいと思います。

ということで、誠に不手際で申しわけございません。偉い人がだんだんおられないようになってしまった寂しくなってきたね。ということで、事務局にお渡します。

○杉本企画推進部長 どうもありがとうございました。長時間にわたりまして熱心にご審議いただけたものと思います。また、時間の関係がございまして、実は合併3年を振り返ってとか、そのあたりでご意見もいただきましたが、また何かご指摘がございましたら事務局までご連絡いただきたいと思います。本日、協議いただきまし

た、特に人口等の数値目標の関係につきましては、20万人をキープするという目標の変更をするといった点をご審議いただけたということでございます。また、今後は議会、それから来年度の予算の編成作業の中で、本日いただいたご意見を踏まえてこの実施計画の内容を固めてまいりたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。